

『チャレンジド(障害のある人)の社会参加と就労を目指して』

特定非営利活動法人(NPO法人) 札幌チャレンジド
理事・事務局長 岡野 裕幸(おかの・ひろゆき)

略歴:1954年生まれ、富良野市出身。東海大学工学部卒業後、1977年北海道リコー(株):現リコー・ジャパンに入社。営業/教育/営業企画/CSR担当者として従事。1998年からはリコーの日本経営品質賞(JQA)への北海道地区担当者としても活動。2011年リコー・ジャパンを退社。2012年よりNPO法人札幌チャレンジドにて現職に至る。

特定非営利活動法人(NPO法人)札幌チャレンジドは2000年5月、障害のある人向けのパソコン講習会を行う任意団体として発足。翌年2001年4月にNPO法人格を取得し札幌市障害者向けIT講習会への講師派遣等の活動を開始しました。チャレンジド(challenged)とは「神からチャレンジすべき課題や才能を与えられた人」という意味が込められている新しい英語です。主な活動としては以下の4つの事業を展開しています。

一つ目は、講習会場でのパソコン講習やご自宅に訪問してパソコンの指導を実施する訪問講習です。札幌チャレンジド独自の企画講習に加え、2003年10月からは「札幌市障がい者ITサポートセンター」事業も受託し、パソコンボランティアさんの協力によるパソコン訪問講習などの運営も実施しています。

二つ目は、情報/通信に関連した障害者支援機器に関する相談/購入/設置をサポートする「日常生活用具支援事業」です。たとえば視覚障害者向けのパソコン読み上げソフトを導入することで、視覚に障害があってもパソコンでインターネットやメールが使える、今迄の限られた情報収集の幅が大きく広がることとなります。またワード/エクセルの操作も可能になり視覚障害者の企業への就職も決まっています。

三つ目は、2006年に施行された障害者自立支援法に基づき、同年10月から、一般企業への就職が困難な障害者に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じてその知識と能力の向上に必要な訓練などの障害福祉サービスを提供することを目的とした就労継続支援のための施設として、障害者と雇用契約を結び、一般企業等から受託した業務に携わっていただく「就労継続支援サービスA型(雇用型)事業所」として活動を開始しました。

四つ目は、2011年11月から、企業などへの一般就労を希望しているチャレンジドに対し、パソコン技能の習得を中心に多様な人々と仕事をしていくためのコミュニケーション訓練、履歴書や職務経歴書の作成などの事業所内での実習を行うと共に、企業等での職場実習、就職後の職場定着支援などを行う「就労移行支援サービス事業」を開始しました。事業開始から約1年半で、利用者24名中14名の方が就職され、移行支援事業所の中でもトップクラスの高い就職率となっています。

以上、札幌チャレンジドは4つの事業により、自立を目指すチャレンジドに対し、パソコンの技術習得による社会参加と就労を支援しています。そのために企業の皆様には大きく2点のお願いがあります。

1点目としては、就労継続支援事業A型として企業と札幌チャレンジドが請負契約を結び、札幌チャレンジドの責任においてチャレンジド達が実際の作業に従事しております。主な仕事はパソコンやインターネットを使った業務になりますが、それ以外の業務を含め、障害者支援/企業のCSRの観点からも業務委託のご相談をお願いいたします。

2点目としては、今年の4月から法定雇用率がアップされ、社員数50名以上の一般企業では2.0%以上の雇用率が義務化されます。また、従来の身体・知的障害者に限らず、精神・発達障害の方も一般就労を目指して就労移行支援サービスを利用して就職を目指しています。利用者個々に障害特性があるため、企業の業務内容にマッチングしたチャレンジドの紹介だけでなく、企業がチャレンジドの特性を活かして永続的に業務が出来るための定着支援も行っています。企業業務にマッチングしたチャレンジドや障害者雇用/定着支援に関して、一度ご相談頂ければと思います。

最後に多くのチャレンジドの社会参加のため札幌チャレンジドがどのような環境で業務/研修をしているのかご見学頂ければと思います。必ず企業のお役に立てると信じていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。